

# 別府と美江寺の十一面観音像

## 開催にあたって

瑞穂には、別府と美江寺に由緒ある観音堂があり、そこには頭部に11の顔を持つ十一面観音像が祀られています。十一面観音像は、様々な苦難から人々を救う慈悲深い菩薩で、この地の十一面観音像も、近隣の人々によって営々と受け継がれてきました。

別府観音は、長良川右岸の自然堤防上に発達した別府の集落の中にあり、岐阜県指定文化財「木造十一面観音立像」が祀られています。この十一面観音立像は、平安時代に東北の豪族大口大領によって京の都で作られ、会津へ運ばれる途中、川崎村の森の地で留まり、源平の合戦の頃、別府に移され、以降、別府観音として近隣の人々による総代会によって守り継がれてきました。

美江寺には、かつて「乾漆十一面観音立像」があり、元正天皇(在位715~724)の勅願によって、木曾・長良・揖斐の三大川の洪水に悩み苦しむ民を哀れに思われて開創されたとされています。その後、美江寺は、室町時代には堂塔合わせて24ある大寺院となりますが、戦国時代には、美濃を征した斎藤道三によって稲葉城下の岐阜の地に移されてしまいます。

このように別府と美江寺にある十一面観音像は、それぞれ大変複雑な歩みを経てその地で祀られるようになりました。その経緯が諸説ありますので整理して紹介していくことにします。



別府観音 木造十一面観音立像

東北の豪族 大口大領が平安京でつくらせた十一面観音像



美江寺観音堂 十一面観音座像



岐阜市美江寺 脱活乾漆十一面観音菩薩



谷汲山華嚴寺 本尊十一面観音像(秘仏)

令和7年度 瑞穂市企画展 ～川とともに生きてきた瑞穂のあゆみ～

## 別府と美江寺の十一面観音像

第1部 別府観音十一面観音立像

第2部 美江寺の十一面観音立像と十一面観音坐像

◇会期：令和7年11月5日(水)～30日(日)

10:00～18:00

休館日＝11/10(月)、17(月)、25(火)

◇会場：瑞穂市図書館本館2階郷土資料コーナー

## ◆企画展講演会

令和7年11月22日(土)13:30～

瑞穂市図書館本館2階学習室(開場13:00)

瑞穂市別府と別府観音十一面観音立像

講師 別府観音総代会 堂守 三島英盛 氏